

日本語能力試験 Can-do 自己評価調査レポート《最終報告》(2012年10月発表)

1. リスト作成の目的

「日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト」は、受験者や周りの人々が「このレベルの合格者は日本語を使ってどんなことができそうか」というイメージを作るための、試験結果の解釈の参考情報として提供するものです。このリストを作成するために、「日本語能力試験の各レベルの合格者が日本語でどんなことができると考えているか」、受験者の日本語能力に対する自己評価を調査しました。

注：Can-do とは、Can-do Statements の略で、外国語を使って何がどれだけできるかを「～できる」という形式で示した文です。

2. 調査の方法

2010年と2011年の日本語能力試験（以下、JLPT）の全レベル（N1～N5）の受験者に対して、自分の日本語能力に対する自己評価についてのアンケート調査を行いました。調査は日本国内および国外の受験者を対象とし、約65,000人から回答を得ました。

調査の実施概要は、表1の通りです。

表1 調査実施概要

調査時期	2010年9月～2011年12月
調査実施地	日本、韓国、中国、ベトナム、マレーシア、インド、オーストラリア、アメリカ、カナダ
調査対象者数	64,842人（2010年および2011年のJLPT受験者数は約120万人）
調査対象者中の合格者数 （実施地別合格者数割合）	33,979人 （日本10.7%、韓国33.0%、中国40.3%、ベトナム11.1%、マレーシア1.4%、インド2.3%、オーストラリア0.4%、アメリカ0.2%、カナダ0.7%）
調査実施方法	質問紙によるアンケート調査 （受験会場および受験者の学習機関での筆記調査、オンライン調査）

※表中の調査対象者数、合格者数は表3とは異なる。

3. 調査の内容

質問紙の調査項目は、日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の4つの技能について、「駅やデパートでのアナウンスを聞いて、だいたい理解できる」（「聞く」の一例）のような行動を記述した文（Can-do）を使用しました。記述文は、CEFR-DIALANG、ACTFL-OPI、TOEFL等を参考に作成しました。日本語らしい特徴を加味し、予備調査を重ねたうえで、各レベルの特徴を示す反応が出やすいものに修正しています。

各項目について、①その内容をしたことがあるか（経験）と、②どのくらいできるか（自己評価）の2つの質問を設けて、①は「ある」または「ない」、②は「4：できる／3：難しいがなんとかでき

る/2:あまりできない/1:できない」の4段階で回答してもらいました。「経験がない項目」の自己評価については、その場面を想像して回答してもらいました。

調査の実施に際しては、受験者の回答の負担を軽減するため、調査項目を分けて、A版(N1～N3向け)と、B版(N3～N5向け)の2版の質問紙を使用しました。調査終了後に両版のデータを結合するため、両版に共通項目を入れたうえで、N3レベルの調査対象者を2グループに分けて各版を使用しました。質問紙には日本語、英語、中国語、韓国語を併記し、他にマレー語版とベトナム語版を作成しました。

調査に使用した質問紙は、資料1と2の通りです。調査項目数の詳細は表2の通りです。

表2 調査項目数

	聞く	話す	読む	書く	合計
A版	20	20	20	20	80
B版	17	17	17	17	68
A版とB版の共通項目	10	9	8	9	36
調査項目数合計	27	28	29	28	112

4. 収集データ

本調査で収集したデータ数(有効回答数)は表3の通りです。なお、回答に1項目でも欠損がある場合はすべて無効としたため、表1の数とは異なっています。

表3 収集データ(有効回答数)

	N1	N2	N3	N4	N5	合計
全体	21,644	17,176	10,616	5,476	3,716	58,628
合格者	9,001	9,676	5,789	2,762	2,820	30,239

5. 分析の方法

収集したデータについて、以下の2段階の統計分析(IRT分析)を行いました。

注:IRTとは、Item Response Theory(項目応答理論)の略で、日本語能力試験の得点算出でも使用している分析手法です。ただし、今回の分析で使用した具体的な方法は採点に使用しているものとは異なります。

(1)全調査項目の難易度順位の決定

前述のようにA版とB版のデータを結合させたいうえで、全レベルの受験者の自己評価に基づいて、全項目の技能別の難易度の順位を決定しました。

この分析では、受験者全員のデータのうち、経験が「ある」項目の、自己評価が「4:できる」という回答を基準として使用しています。

(2)各レベルの合格者の各項目に対する自己評価結果（割合）の推計

各レベルの合格者がそれぞれの Can-do 項目について、「できる」と考える割合を推計しました。

この分析では、各レベルの合格者のうち、経験が「ない」と回答した項目が比較的少ない者のデータを対象とし、中でも合格ライン付近の合格者（図1）のデータのみを使用しています。

これは、合格ライン付近の合格者が「できる」と考える項目であれば、そのレベルの合格者の多くが「できる」と考えると予想できるからです。

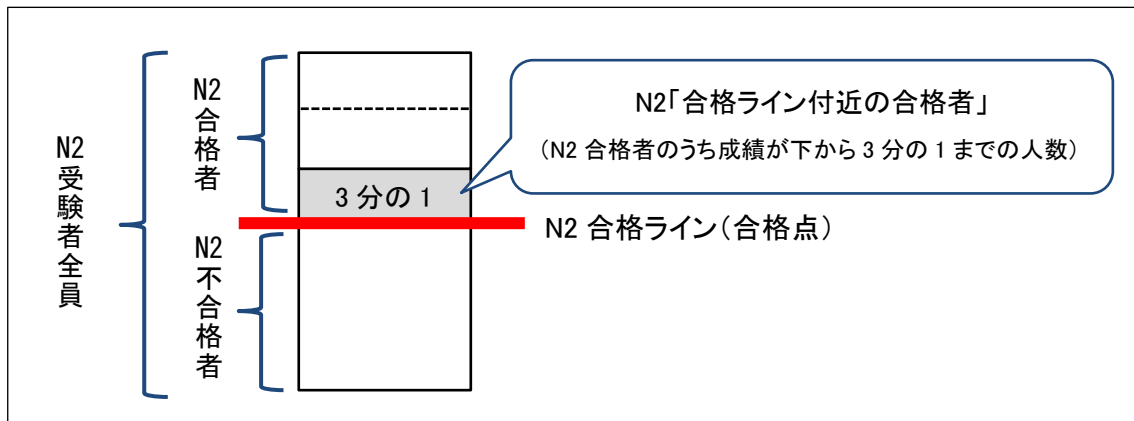


図1 合格ライン付近の合格者（N2の例）

6. リストの作成

最終分析結果に基づいて、リストを作成しました。リストの作成にあたっては、利用者が参照しやすいものであることを重視しました。そのため、項目数を調整して、各技能20項目ずつに絞って提示することにしました。項目数の調整にあたっては、各レベルの項目数のバランス、各項目の統計的な数値、項目内容の類似性、技能間の対応関係などを考慮しています。

そして、各レベルの合格者が「できる」と考える割合を、①75%以上、②50%以上75%未満、③25%以上50%未満、④25%未満の4段階の色の濃淡で示しました（図2）。

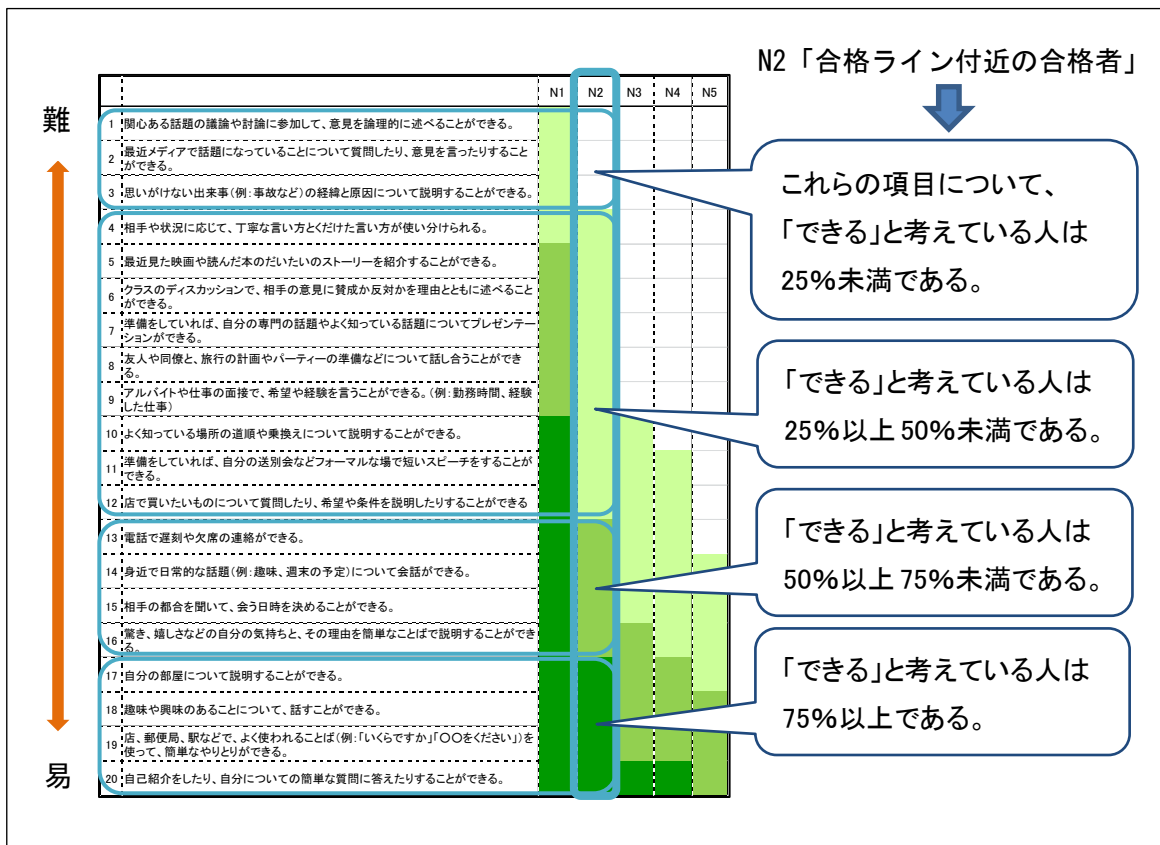


図2 各レベルの合格者が「できる」と考える割合 (N2「話す」の例)

7. 中間報告との違い

最後に、今回の報告（最終報告）と中間報告との違いについて述べます。

調査の方法と調査内容については、両者に違いはありません。最終報告では、中間報告時のデータに、その後収集したデータを加えて分析を行っています。

大きく異なっているのは分析方法です。最終の IRT による分析方法は本調査の設計段階から計画されていたものですが、中間報告の段階ではデータ数が少なかったため、4段階自己評価の「評定平均」による分析を行いました。その際は合格者全員のデータを使用しました。なお、最終調査結果についても、「評定平均」による分析を行って、両者の結果が大きく異なることを確認しています。

また、分析の方法が異なっているため、作成したリストの形式も大きく異なっています。

最終報告と中間報告の主な違いは、表4の通りです。

表4 最終報告と中間報告の比較

	最終報告	中間報告
調査対象者数	64,842人	27,165人
うち合格者数	33,979人	16,675人
分析方法	IRT分析	評定平均
リスト形式	①全レベルを1つにまとめた、技能別の4つの表。 ②Can-do項目を難易度順に提示し、各レベルの合格者が「できる」と考える割合を色の濃淡で表示。	①N1～N3とN4・N5に分けた、技能別の8つの表。 ②Can-do項目をN1とN4の評定平均値順に提示し、各レベルの合格者の評定平均値を並列表示。

資料1 調査紙 (A版) (日本語の質問項目のみを掲載)

資料2 調査紙 (B版) (日本語の質問項目のみを掲載)

<参考文献>

- 大隅・野口・熊谷・石毛・長沼・和田・伊東 (2006) 「日本語能力試験 can-do statements (試行版) と CEFR-DIALANG との対応付けの試み」 5th International J-OPI-Symposium Berlin 2006.
- 三枝令子 (2004) 『日本語 Can-do Statements 尺度の開発 平成13年度～平成15年度科学研究費補助金 (基礎研究B1) 研究成果報告書』
- 島田めぐみ (2010) 「自己評価 Can-do statements に関する一考察—客観テストとの比較を通して—」 『東京学芸大学紀要 総合教育科学系Ⅱ』 61、267-277.
- 長沼・大隅・和田・伊東・熊谷・野口 (2007) 「JLPT 日本語能力記述文作成の試み—日本語能力試験 (JLPT) Can-do-Statements 試行版の分析から—」 2007年度日本語教育学会秋季大会研究発表予稿集、215-218.
- 日本語教育学会 (1999) 『Can-do-Statements 調査報告—日本語能力試験の妥当性を検証する試み—』 国際交流基金
- 野口・熊谷・大隅・石毛・長沼 (2006) 「日本語能力試験 can-do statements (試行版) の IRT 尺度化と日本語能力試験の得点段階との対応付けの試み」 5th International J-OPI-Symposium Berlin 2006.
- 廣利正代 (2001) 「第5章 日本語能力試験の妥当性検証の試み」 『平成11年度日本語能力試験 分析評価に関する報告書』 国際交流基金・日本国際教育協会
- 廣利正代 (2002) 「第5章 日本語能力試験の妥当性検証の試み」 『平成12年度日本語能力試験 分析評価に関する報告書』 国際交流基金・日本国際教育協会
- 和田晃子 (2000) 「第5章 日本語能力試験の妥当性検証の試み」 『平成10年度日本語能力試験 分析評価に関する報告書』 国際交流基金・日本国際教育協会

資料1 調査票 (A版)

あなたは日本語を使って、どんなことができますか。

➤ 答え方について

【質問用紙】の「項目」の文を読んで、【回答用紙】の質問Aと質問Bの両方に答えてください。

質問A 「日本語で経験したことがありますか？」	<table border="1"><tr><td>はい</td><td>いいえ</td></tr><tr><td>Ⓚ</td><td>Ⓝ</td></tr></table>	はい	いいえ	Ⓚ	Ⓝ
はい	いいえ				
Ⓚ	Ⓝ				

日本語で経験したことがある人 → 「はい」Ⓚにマークしてください。

はい	いいえ
Ⓚ	Ⓝ

日本語で経験したことがない人 → 「いいえ」Ⓝにマークしてください。

はい	いいえ
Ⓚ	Ⓝ

質問B 「日本語でできますか？」	<table border="1"><tr><td>できない</td><td>あまり</td><td>むずかしいが</td><td>できる</td></tr><tr><td></td><td>できない</td><td>なんとか</td><td></td></tr><tr><td>No</td><td>Not very</td><td>できる</td><td>Yes</td></tr><tr><td></td><td>well</td><td>with</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>difficulty</td><td></td></tr><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td></tr></table>	できない	あまり	むずかしいが	できる		できない	なんとか		No	Not very	できる	Yes		well	with				difficulty		①	②	③	④
できない	あまり	むずかしいが	できる																						
	できない	なんとか																							
No	Not very	できる	Yes																						
	well	with																							
		difficulty																							
①	②	③	④																						

「① できない」「② あまりできない」「③ 難しいがなんとかできる」「④ できる」の中から一つだけ選んで、マークしてください。

！ 注意

- ※ 項目の事柄が日本語でできるかどうかを答えてください。
- ※ 経験したことがない場合 (=質問Aで「いいえ」にマークした場合) でも、想像して答えてください。
- ※ 全部の項目の質問Aと質問Bに答えてください。

I き 聞く

	項目
1	身近で日常的な話題(例:旅行の計画、パーティーの準備)についての話し合いで、話の流れが理解できる。
2	アニメや若者向け映画のような単純なストーリーのテレビドラマや映画を見て、だいたいの内容が理解できる。
3	あまりなじみのない話題の会話でも話の要点が理解できる。
4	最近メディアで話題になっていることについての会話で、だいたいの内容が理解できる。
5	社会問題を扱ったテレビのドキュメンタリー番組を見て、話の要点が理解できる。
6	学校や職場の会議で、話の流れが理解できる。
7	店で商品の説明を聞いて、知りたいこと(例:特徴など)がわかる。
8	思いがけない出来事(例:事故など)についてのアナウンスを聞いてほしい理解できる。
9	身近で日常的な内容のテレビ番組(例:料理、旅行)を見て、だいたいの内容が理解できる。
10	フォーマルな場(例:歓迎会)でのスピーチを聞いて、だいたいの内容が理解できる。
11	関心あるテーマの講義や講演を聞いて、だいたいの内容が理解できる。
12	周りの人との雑談や自由な会話で、だいたいの内容が理解できる。
13	駅やデパートでのアナウンスを聞いて、ほしい理解できる。
14	標準的な話し方のテレビドラマや映画を見て、ほしい理解できる。
15	関心あるテーマの議論や討論で、だいたいの内容が理解できる。
16	政治や経済などについてのテレビのニュースを見て、要点が理解できる。
17	身近にある機器(例:コピー機)の使い方の説明を聞いて、理解できる。
18	仕事や専門に関する問い合わせを聞いて、内容が理解できる。
19	身近で日常的な話題についてのニュース(例:天気予報、祭り、事故)を聞いて、ほしい理解できる。
20	会話を聞いて、敬語やくだけた言葉を使っていることが理解できる。

II はな 話す

	項目
1	友人や同僚と、旅行の計画やパーティーの準備などについて話し合うことができる。
2	よく知っている場所の道順や乗り換えについて説明することができる。
3	旅行中のトラブル（例：飛行機のキャンセル、ホテルの部屋の変更）にだいたい対応できる。
4	身近で日常的な話題（例：趣味、週末の予定）について会話ができる。
5	クラスのディスカッションで、相手の意見に賛成か反対かを理由とともに述べることができる。
6	関心ある話題の議論や討論に参加して、意見を論理的に述べることができる。
7	準備をしていれば、自分の送別会などフォーマルな場で短いスピーチをすることができる。
8	最近見た映画や読んだ本のだいたいのストーリーを紹介することができる。
9	相手の都合を聞いて、会う日時を決めることができる。
10	店で買いたいものについて質問したり、希望や条件を説明したりすることができる。
11	準備をしていれば、自分の専門の話題やよく知っている話題についてプレゼンテーションができる。
12	アルバイトや仕事の面接で、希望や経験を言うことができる。（例：勤務時間、経験した仕事）
13	基本的な敬語表現（例：「いらっしゃいます」、「おもちします」）を適切に使うことができる。
14	使い慣れた機器（例：自分のカメラなど）の使い方を説明することができる。
15	旅行会社や駅で、ホテルや電車の予約をすることができる。
16	最近メディアで話題になっていることについて質問したり、意見を言ったりすることができる。
17	思いがけない出来事（例：事故など）の経緯と原因について説明することができる。
18	相手や状況に応じて、丁寧な言い方とくだけた言い方が使い分けられる。
19	電話で遅刻や欠席の連絡ができる。
20	体験したこと（例：旅行、ホームステイ）とその感想について話すことができる。

III よ読む

	項目
1	旅行のガイドブックや、進学・就職の情報誌を読んで、必要な情報がとれる。
2	図鑑などの絵や写真のついた短い説明を読んで、必要な情報がとれる。
3	公共の場所にある標示（「立入禁止」、「さわるな」、「故障中」など）がわかる。
4	商品のパンフレットを見て、知りたいことがわかる。（例：商品の特徴など）
5	身近で日常的な話題についての新聞や雑誌の記事を読んで、内容が理解できる。
6	一般日本人向けの国語辞典を使ってことばの意味が調べられる。
7	短い物語を読んで、だいたいのストーリーが理解できる。
8	論説記事（例：新聞の社説など）を読んで、主張・意見や論理展開が理解できる。
9	仕事相手からの問い合わせや依頼の文書を読んで、理解できる。
10	エッセイを読んで、筆者の言いたいことがわかる。
11	人物の心理や話の展開を理解しながら、小説を読むことができる。
12	敬語が使われている正式な手紙やメールの内容が理解できる。
13	家庭用電化製品（例：洗濯機など）の取扱説明書を読んで、基本的な使い方がわかる。
14	自分の仕事や関心のある分野の報告書・レポートを読んで、だいたいの内容が理解できる。
15	政治、経済などについての新聞や雑誌の記事を読んで、要点が理解できる。
16	生活や娯楽（例：ファッション、音楽、料理）についての情報誌を読んで、必要な情報がとれる。
17	電子機器（例：携帯電話など）の新しい機能であっても、取扱説明書を読んで、使い方がわかる。
18	関心のある話題についての専門的な文章を読んで、だいたいの内容が理解できる。
19	駅の時刻表や案内板を見て、自分が乗る電車の時間がわかる。
20	学校、職場などの掲示板を見て、必要な情報（例：講義や会議のスケジュールなど）がとれる。

IV か書く

	項目
1	自分の日常生活を説明する文章を書くことができる。
2	友人や同僚に日常の用件を伝える簡単なメモを書くことができる。
3	書式の決まった書類 (例: 申込書など) を書くことができる。
4	自分の関心のある分野のレポートを書くことができる。
5	学校や会社への志望理由などを書くことができる。
6	最近読んだ本や見た映画のだいたいのストーリーを書くことができる。
7	自分の送別会などでの挨拶スピーチの原稿を書くことができる。
8	インターネット上で予約や注文をすることができる。
9	思いがけない出来事 (例: 事故など) について説明する文章を書くことができる。
10	体験したことや、その感想について、簡単に書くことができる。
11	複数の情報や意見を自分のことばでまとめて、文章を書くことができる。
12	学校、ホテル、店などに問い合わせの手紙やメールを書くことができる。
13	知人に、感謝や謝罪を伝える手紙やメールを書くことができる。
14	論理的に意見を主張する文章を書くことができる。
15	料理の作り方や機械の使い方などの方法を書いて伝えることができる。
16	目上の知人 (例: 先生など) あてに、基本的な敬語を使って手紙やメールを書くことができる。
17	自分が見た場面や様子を説明する文を書くことができる。
18	理由を述べながら、自分の意見を書くことができる。
19	自分の仕事内容または専門的関心 (例: 研究テーマなど) について簡単に説明することができる。
20	自国の文化や習慣 (例: 祭りなど) を紹介するスピーチの原稿を書くことができる。

アンケートは以上です。ご協力、ありがとうございました。

資料 2 調査票 (B版)

あなたは日本語を使って、どんなことができますか。

➤ 答え方について

【質問用紙】の「項目」の文を読んで、【回答用紙】の質問Aと質問Bの両方に答えてください。

質問A 「日本語で経験したことがありますか？」	<table border="1"><tr><td>はい</td><td>いいえ</td></tr><tr><td>Ⓚ</td><td>Ⓝ</td></tr></table>	はい	いいえ	Ⓚ	Ⓝ
はい	いいえ				
Ⓚ	Ⓝ				

日本語で経験したことがある人 → 「はい」Ⓚにマークしてください。

はい	いいえ
Ⓚ	Ⓝ

日本語で経験したことがない人 → 「いいえ」Ⓝにマークしてください。

はい	いいえ
Ⓚ	Ⓝ

質問B 「日本語でできますか？」	<table border="1"><tr><td>できない</td><td>あまり</td><td>むずかしいが</td><td>できる</td></tr><tr><td></td><td>できない</td><td>なんとか</td><td></td></tr><tr><td>No</td><td>Not very</td><td>Yes, but</td><td>Yes</td></tr><tr><td></td><td>well</td><td>with</td><td></td></tr><tr><td></td><td></td><td>difficulty</td><td></td></tr><tr><td>①</td><td>②</td><td>③</td><td>④</td></tr></table>	できない	あまり	むずかしいが	できる		できない	なんとか		No	Not very	Yes, but	Yes		well	with				difficulty		①	②	③	④
できない	あまり	むずかしいが	できる																						
	できない	なんとか																							
No	Not very	Yes, but	Yes																						
	well	with																							
		difficulty																							
①	②	③	④																						

「① できない」「② あまりできない」「③ 難しいがなんとかできる」「④ できる」の中から一つだけ選んで、マークしてください。

！ 注意

※ 項目の事柄が日本語でできるかどうかを答えてください。

※ 経験したことがない場合 (=質問Aで「いいえ」にマークした場合) でも、想像して答えてください。

※ 全部の項目の質問Aと質問Bに答えてください。

I き 聞く

	項目
1	店、郵便局、駅などで、よく使う言葉 (例:「いらっしゃいませ」「〇〇円です」「こちらへどうぞ」) を聞いて、理解できる。
2	教室で、先生や友達の簡単な自己紹介を聞いて、理解できる。
3	身近で日常的な話題についてのニュース (例: 天気予報、祭り、事故) を聞いて、だいたい理解できる。
4	店で商品の説明を聞いて、知りたいこと (例: 特徴など) がわかる。
5	簡単な道順や乗り換えについての説明を聞いて、理解できる。
6	アニメや若者向け映画のような単純なストーリーのテレビドラマや映画を見て、だいたいの内容が理解できる。
7	会話を聞いて、敬語やくだけた言葉を使っていることが理解できる。
8	周りの人との雑談や自由な会話で、だいたいの内容が理解できる。
9	身近で日常的な話題 (例: 趣味、食べ物、週末の予定) についての会話がだいたい理解できる。
10	駅やデパートでのアナウンスを聞いて、だいたい理解できる。
11	簡単な指示を聞いて、何をすべきか理解できる。
12	最近メディアで話題になっていることについての会話で、だいたいの内容が理解できる。
13	身近で日常的な内容のテレビ番組 (例: 料理、旅行) を見て、だいたいの内容が理解できる。
14	友達の国や町の紹介を聞いて、位置や人口や特徴などが聞き取れる。
15	先生からのお知らせを聞いて、集合時間、場所などがわかる。
16	身近で日常的な話題 (例: 旅行の計画、パーティーの準備) についての話し合いで、話の流れが理解できる。
17	身近にある機器 (例: コピー機) の使い方の説明を聞いて、理解できる。

II はな 話す

	項目
1	自己紹介をしたり、自分についての簡単な質問に答えたりすることができる。
2	趣味や興味のあることについて、話すことができる。
3	自分の部屋について説明することができる。
4	旅行会社や駅で、ホテルや電車の予約をすることができる。
5	アルバイトや仕事の面接で、希望や経験を言うことができる。(例：勤務時間、経験した仕事)
6	驚き、嬉しさなどの自分の気持ちと、その理由を簡単なことばで説明することができる。
7	友人や同僚と、旅行の計画やパーティーの準備などについて話し合うことができる。
8	日常的なあいさつと、その後の短いやりとりができる。(例：「いい天気ですね」など)
9	体験したこと (例：旅行、ホームステイ) とその感想について話すことができる。
10	店、郵便局、駅などで、よく使われることば (例：「いくらですか」「〇〇をください) を使って、簡単なやりとりができる。
11	使い慣れた機器 (例：自分のカメラなど) の使い方を説明することができる。
12	最近見た映画や読んだ本のだいたいのストーリーを紹介することができる。
13	よく知っている場所の道順や乗り換えについて説明することができる。
14	身近で日常的な話題 (例：趣味、週末の予定) について会話がができる。
15	観光地などで会った人に声をかけて、簡単な会話がができる。
16	自分の家族や町など身近な話題について説明することができる。
17	基本的な敬語表現 (例：「いらっしゃいます」、「おもちします) を適切に使うことができる。

III よ読む

	こうもく 項目
1	かんたん ぶん か につぎ みじか きくぶん よ 簡単な文で書かれた日記や短い作文を読むことができる。
2	はくぶつかん などの あんない み かいかんじかん にゅうかんにりよう 博物館などの案内を見て、開館時間、入館料などがわかる。
3	ねんがじょう たんじょうび よ りかい 年賀状や誕生日のカードを読んで、理解できる。
4	えがたくさん はい ほん まんが よ りかい 絵がたくさん入っている本や漫画を読んで、だいたいのストーリーが理解できる。
5	がっこう などで めんだん よていひょう み じぶん めんだん ようび じかん 学校などで面談の予定表を見て、自分の面談の曜日と時間がわかる。
6	かていようでん かせいひん れい せんたくき とりあつかいせつめいしょ よ きほんてき つか かた 家庭用電化製品（例：洗濯機など）の取扱説明書を読んで、基本的な使い方がわかる。
7	ちじん ゆうじん き よ りかい 知人や友人から来たはがきやメールを読んで、理解できる。
8	みじか ものがたり よ りかい 短い物語を読んで、だいたいのストーリーが理解できる。
9	しんぶん こうこく なみ やすう きかん ねだん 新聞の広告やチラシを見て、安売り期間や値段などがわかる。
10	みぢか にちじょうてき わだい しんぶん ざっし きじ よ ないよう りかい 身近で日常的な話題についての新聞や雑誌の記事を読んで、内容が理解できる。
11	がっこう しょくば けいじばん み ひつよう じょうほう れい こうぎ かいぎ 学校、職場などの掲示板を見て、必要な情報（例：講義や会議のスケジュールなど）がとれる。
12	かんたん よ りかい 簡単なメモを読んで、理解できる。
13	りょこう ガイドブックや、しんがく しゅうしよく じょうほうし よ ひつよう じょうほう 旅行のガイドブックや、進学・就職の情報誌を読んで、必要な情報がとれる。
14	え ついた かんたん しじ れい す かた りょうり つく かた 絵の付いた簡単な指示（例：ゴミの捨て方、料理の作り方）がわかる。
15	こうきょう ばしょ がある ひょうじ たちいりきんし こしょうちゅう 公共の場所にある標示（「立入禁止」、「さわるな」、「故障中」など）がわかる。
16	けいご つか せいしき てがみ ないよう りかい 敬語が使われている正式な手紙やメールの内容が理解できる。
17	まき じこくひょう あんないばん み じぶん の でんしゃ じかん 駅の時刻表や案内板を見て、自分が乗る電車の時間がわかる。

IV か書く

	項目
1	書類に、名前や国名などを書くことができる。
2	友人に、依頼や誘いの簡単な手紙やメールを書くことができる。
3	自分の家族や町などの身近な話題について簡単に書くことができる。
4	誕生日カードや短いお礼のカードを書くことができる。
5	友人や同僚に日常の用件を伝える簡単なメモを書くことができる。
6	予定表やカレンダーに、短いことばで自分の予定を書くことができる。
7	体験したことや、その感想について、簡単に書くことができる。
8	簡単な自己紹介の文を書くことができる。
9	最近読んだ本や見た映画のだいたいのストーリーを書くことができる。
10	将来の計画や希望 (例：夏休みの旅行、やりたい仕事) について簡単に書くことができる。
11	自分の日常生活を説明する文章を書くことができる。
12	理由を述べながら、自分の意見を書くことができる。
13	短い日記を書くことができる。
14	書式の決まった書類 (例：申込書など) を書くことができる。
15	自分が見た場面や様子を説明する文を書くことができる。
16	自国の文化や習慣 (例：祭りなど) を紹介するスピーチの原稿を書くことができる。
17	知人に、感謝や謝罪を伝える手紙やメールを書くことができる。

アンケートは以上です。ご協力、ありがとうございました。